

平成22年度

掛之上遺跡87・89・91・93

—写真図版編—

2011

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 22 年度

掛之上遺跡87・89・91・93

－ 写真図版編 －

2011

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例

言

1. 本書は、平成22年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、^{かけのうへ}掘之上遺跡の第87・89・91・93次発掘調査報告書写真図版編である。本書では民地分の発掘調査についてのみ報告した。第87次発掘調査区については、平成21年度末に実施しているが、前年度報告書に掲載できなかったため、本書で報告することとした。なお、編集の都合で、調査区が隣接する第87・91次発掘調査区と、第89・93次発掘調査区を組み合わせで報告する。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の藤原資郎、村田理美、大澤勇人、奥野山誠、鈴木重光の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影し作成したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第87次発掘調査区空中写真全景 (2) 第91次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第89次発掘調査区空中写真全景
(2) 第89次発掘調査区SH12・13空中写真
- 巻頭カラー図版3 (1) 第93次発掘調査区空中写真全景
(2) 第93次発掘調査区SH15空中写真
- 図版1 (1) 第87次発掘調査区空中写真全景 (2) 第87次発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) 第87次-1発掘調査区全景 (2) SZ3・SD43
- 図版3 (1) SZ3 (2) 第87次-2発掘調査区全景
- 図版4 (1) SB45 (2) SB65
- 図版5 (1) SZ5・6 (2) SK217・218
- 図版6 (1) 第91次発掘調査区空中写真全景 (2) 第91次発掘調査区空中写真全景
- 図版7 (1) 第91次-1発掘調査区全景 (2) SB79
- 図版8 (1) SH19 (2) SZ3・SD43
- 図版9 (1) 1区東端北壁土層 (2) 第91次-2発掘調査区空中写真全景
- 図版10 (1) 第91次-2発掘調査区全景 (2) SB65・SK219
- 図版11 (1) SZ5東溝土層 (2) SZ5・SD46
- 図版12 (1) 2区南端南壁土層 (2) 人力による作業風景
- 図版13 (1) 第89次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第89次発掘調査区空中写真全景
- 図版14 (1) 第89次発掘調査区空中写真全景 (2) 第89次発掘調査区空中写真全景
- 図版15 (1) SB10 (2) SB10貯蔵穴
- 図版16 (1) SB11 (2) SB11貯蔵穴
- 図版17 (1) SB11貯蔵穴土器出土状況 (2) SB11貯蔵穴土層
- 図版18 (1) SB12 (2) SB12
- 図版19 (1) SB12土器出土状況 (2) SB12貯蔵穴
- 図版20 (1) SB12貯蔵穴土器出土状況 (2) SB13
- 図版21 (1) SH12・13空中写真 (2) SH12・13空中写真
- 図版22 (1) SH12P2 (2) SH12P7・SH13P5
- 図版23 (1) SH14 (2) SZ10空中写真
- 図版24 (1) SZ10空中写真 (2) SZ10東溝土層
- 図版25 (1) SZ10南溝土層 (2) SZ12
- 図版26 (1) SD51・52 (2) SD52土層
- 図版27 (1) SE1 (2) SE1土器出土状況
- 図版28 (1) SE1土層 (2) SK75
- 図版29 (1) SK75土層 (2) SK77・83
- 図版30 (1) SK78・79 (2) SK82
- 図版31 (1) 西壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版32 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版33 (1) 第93次発掘調査区空中写真全景 (2) 第93次発掘調査区空中写真全景

- 図版34 (1) SH14~17空中写真 (2) SH15空中写真
図版35 (1) SH15 (2) SH15P 3
図版36 (1) SH15P 3土層 (2) SH15P 4
図版37 (1) SH16 (2) SH16・17空中写真
図版38 (1) SZ11・12空中写真 (2) SZ11・12空中写真
図版39 (1) SZ11北溝土器出土状況 (2) SZ11北溝土器出土状況
図版40 (1) SZ11北溝土層 (2) SZ12東溝土器出土状況
図版41 (1) SZ12東溝土層 (2) SK84
図版42 (1) 南壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
図版43 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 第89次発掘調査区空中写真全景(弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居、戦国時代の大形掘立柱建物が見つかった。上が東、真上より)

写真図版



(1) 第87次発掘調査区空中写真全景
(左側の調査区が1区、右側の調査区を2区とした。何れの調査区からも弥生時代中期後葉の
方形周溝墓、後期の竪穴住居や土坑、近世の屋敷地の区画溝が見られる。北西より)



(2) 第91次発掘調査区空中写真全景
(第87次発掘調査区に隣接地した調査区である。手前のトレン状の
調査区が1区、奥の狭い調査区が2区である。北より)



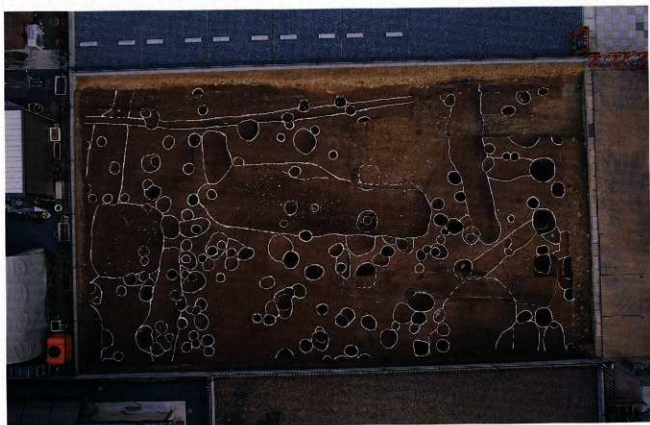
(1) 第89次発掘調査区空中写真全景

(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竅穴住居、戦国時代の掘立柱建物が検出された。北より)



(2) 第89次発掘調査区 S H12・13 空中写真

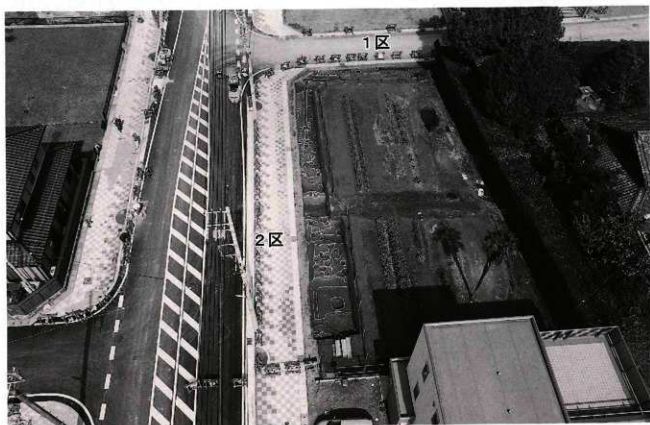
(戦国時代の大型の掘立柱建物2棟が重複して検出された。東より)



(1) 第93次発掘調査空中写真全景
(第89次発掘調査区と同様に、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、
戦国時代の掘立柱建物が検出された。上が北で、真上より)



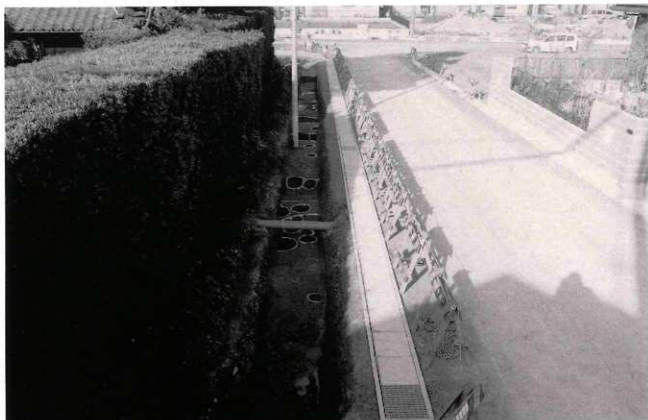
(2) 第93次発掘調査区SH15空中写真
(戦国時代の大型の掘立柱建物が検出された。北より)



(1) 第87次発掘調査区空中写真全景
(主に2区部分が写っている。弥生時代中期後葉の方形周溝墓、
後期の竪穴住居、近世の区画溝が検出された。南より)



(2) 第87次発掘調査区空中写真全景
(手前の東西方向の調査区である1区からは、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、中・近世の区画溝が
検出された。弥生時代中～後期の墓域や居住域として利用されていたことが判明した。北より)



(1) 第87次-1発掘調査区全景
(東西方向の調査区で、遺構の数は後世の削平を受けているせいか、少なく見える。東より)



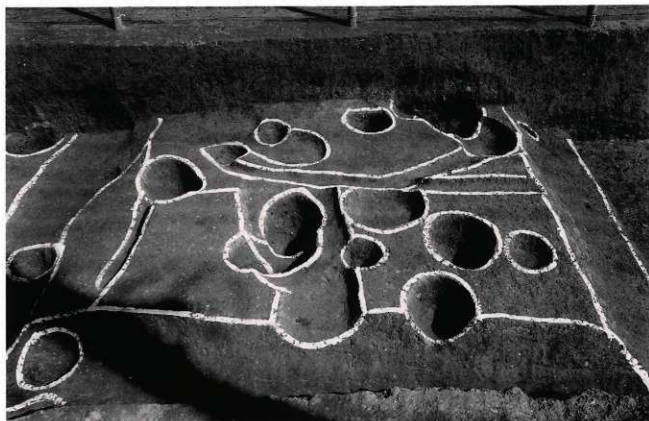
(2) SZ3・SD43
(SZ3西溝は弥生時代中期後葉の方形周溝墓の可能性ある、
SD43は中世の規模の大きな基幹排水路を兼ねた区画溝と思われる。西より)



(1) SZ 3 (SD 3 東溝と南溝の連結小溝の可能性ある。北より)



(2) 第87次-2発掘調査区全景
(南北方向の調査区で、弥生時中〜後期の遺構の数は多いため、
集落域の中心地であったことがわかる。南より)



(1) SB45

(弥生時代後期の竪穴住居であるが、2棟以上と切り合いがある。
一部の検出に留まるため、全体の形状は不明である。西より)

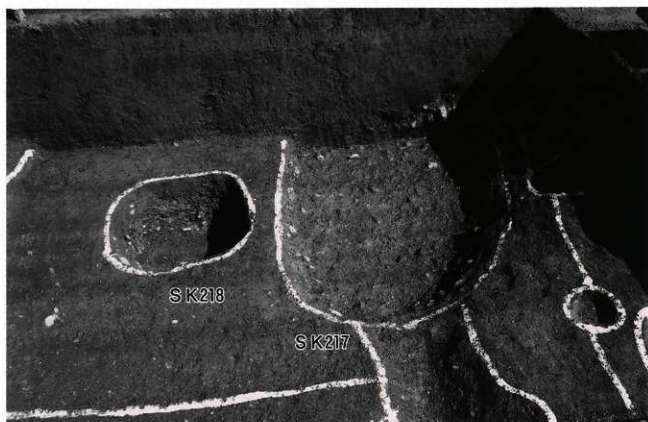


(2) SB65

(弥生時代後期の竪穴住居であるが、他の遺構との切り合いがある。
一部の検出に留まるため、全体の形状は不明である。西より)



(1) SZ 5・6 (隣接する弥生時代中期後葉の2基の方形周溝墓の溝である。西より)



(2) SK 217・218 (現代水田跡により削平されているが、何れも近世の土坑と思われる。西より)



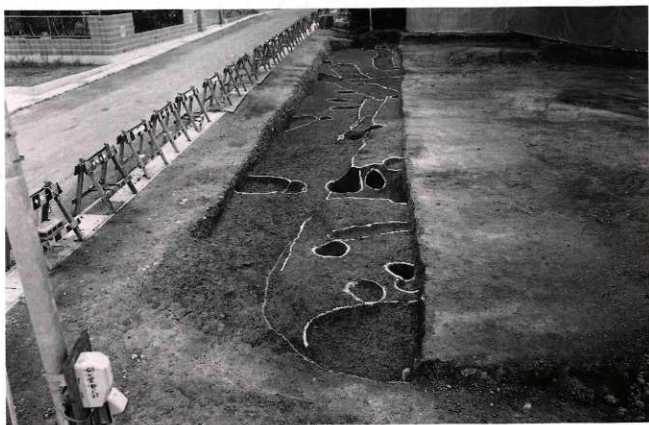
(1) 第91次発掘調査区空中写真全景

(東西方向のトレンチ状の調査区である1区からは、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、中世の区画溝が発見されたが、現代の削平のため遺構の数は少なく見える。西より)



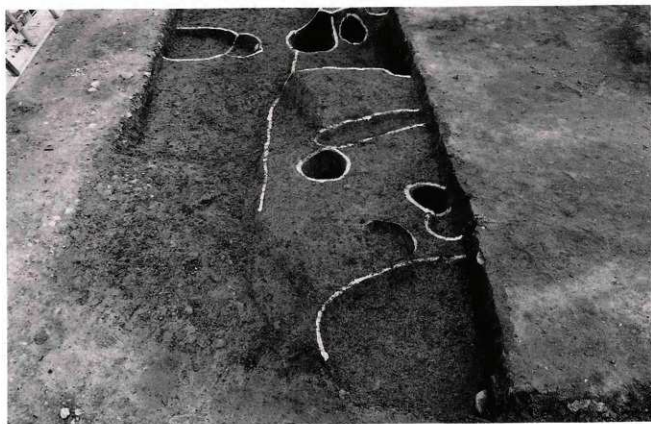
(2) 第91次発掘調査区空中写真全景

(南北方向の調査区である2区からは、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、後期の竪穴住居が検出された。遺構の数は多く、弥生時代中～後期の墓域や居住域として利用されていたことが判明した。上が西で、真上より)



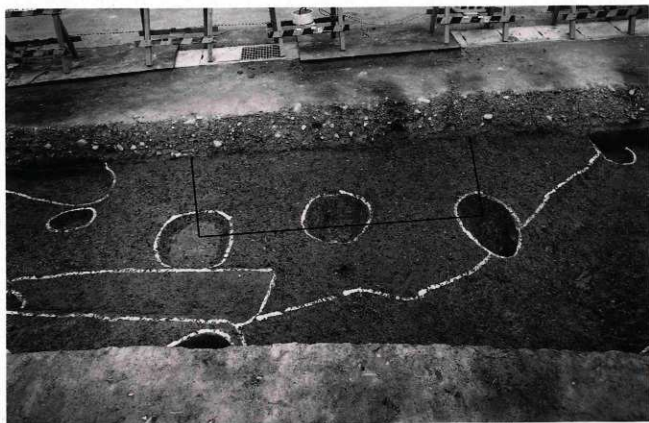
(1) 第91次-1発掘調査区全景

(東西方向のトレンチ状の調査区である。弥生時代中期後葉の方形周溝墓、後期の竪穴住居、古墳時代後期の掘立柱建物、中世の区画溝が発見された。西より)



(2) SB79

(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、ごく一部の検出に留まるため、全体の形状、時期は不明である。西より)



(1) SH19

(大半は南側の調査区外となる。古墳時代後期の掘立柱建物と思われる、
間口は2間×1間以上の規模となる。主軸方向はおそらく南北となる建物であろう。南より)

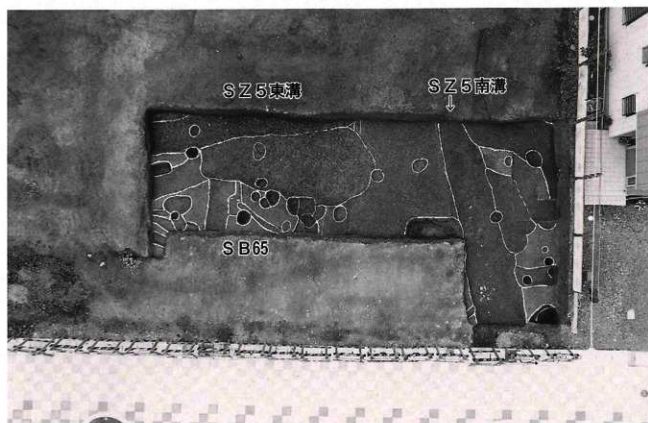


(2) SZ3・SD43

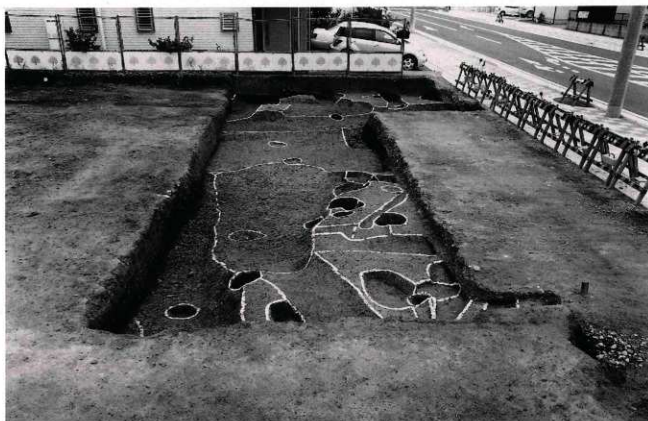
(SZ3南溝は弥生時代中期後葉の方形周溝墓の可能性があり、
SD43は中世の規模の大きな基幹排水路を兼ねた区画溝と思われる。南西より)



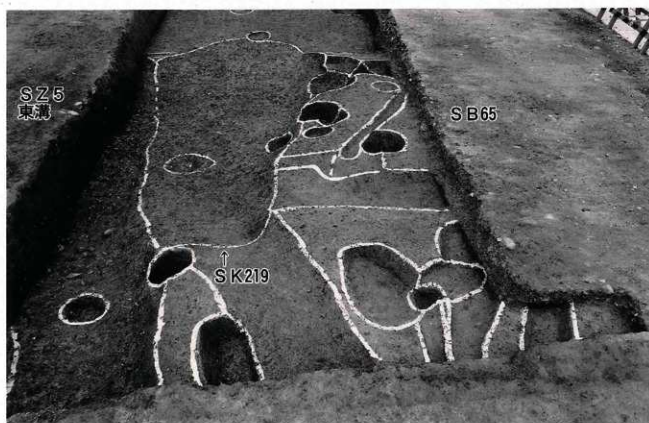
(1) 1区東端北壁土層（包含層はなく、厚い表土（I層）のみが見られた。北より）



(2) 第91次-2発掘調査区空中写真全景
 (弥生時代中期後葉の方形周溝墓、後期の竪穴住居や土坑、
 近世の区画溝などが検出されている。上が東で、真上より)



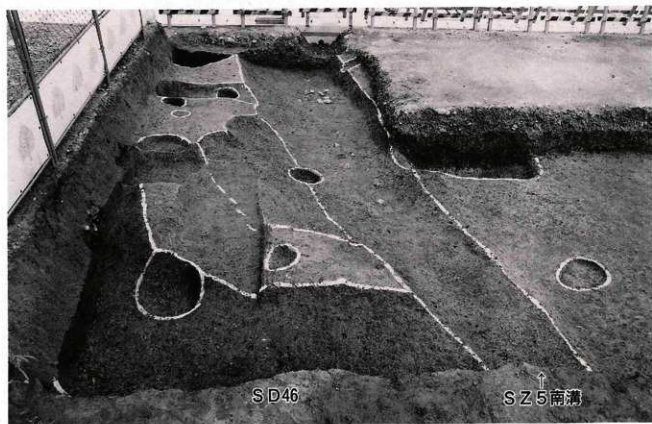
(1) 第91次-2発掘調査区全景
(弥生時代中期後葉～後期の遺構が比較的多く検出されているため、
墓域や集落域の中心地であったことがわかる。北より)



(2) SB65・SK219
(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、遺構の残存状況が良くないため、
全体の形状、時期は不明である。SK219は弥生時代後期的大型土坑であると思われる。北より)



(1) SZ 5 東溝土層（盛土の流入などは認められず、自然堆積を示している。南より）



(2) SZ 5・SD 46

（SZ 5 南溝は弥生時代中期後葉の方形周溝墓、SD 46は近世の溝である。東より）



(1) 2区南端南壁土層（厚さ20cmの包含層（II層）が存在した。北より）



(2) 人力による作業風景（2区での遺構の掘削作業を行っている。）



(1) 第89次発掘調査区空中写真遠景
(手前に原野谷川が流れ、段丘上に掛之上遺跡と大門遺跡が立地している。
さらに旧高尾池の水田をはさんで、南側の段丘に団子塚遺跡が展開し、小笠山が望める。北より)



(2) 第89次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居、戦国時代の掘立柱建物が検出された。南より)



(1) 第89次発掘調査区空中写真全景
(遺構の数は多いため、各時代の集落域の中心地であることが判明した。西より)



(2) 第89次発掘調査区空中写真全景
(北東部分については、自然の谷に近づき遺構面が流失しているために、遺構の数が少なく見える。上が東で、真上より)

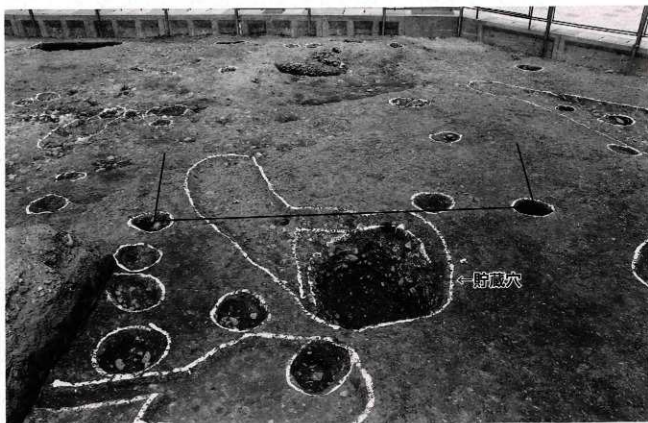


(1) SB10

(古墳時代後期の竪穴住居であるが、残存状況は良くないため、平面プランはよくわからない。
かまどの位置もわからないが、貯蔵穴は検出できた。南より)



(2) SB10貯蔵穴 (竪穴住居の南壁出入口付近に掘られた貯蔵穴と思われる。南より)



(1) S B11

(古墳時代後期の竪穴住居であるが、残存状況は良くないため、平面プランはよくわからない。かまどの位置もわからないが、貯蔵穴は検出できた。南より)



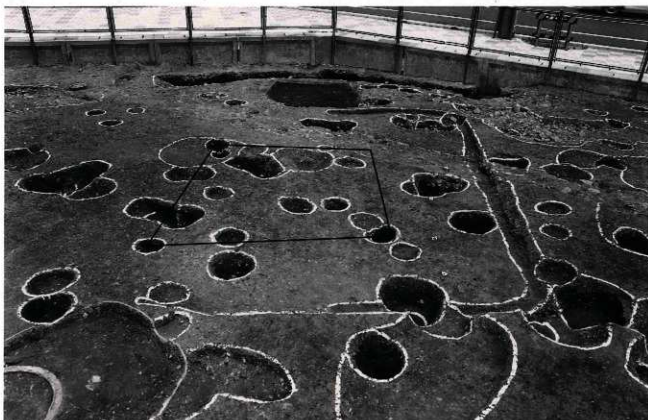
(2) S B11貯蔵穴 (竪穴住居の南壁出入口付近に掘られた貯蔵穴と思われる。南より)



(1) SB11貯蔵穴土器出土状況（土師器の坏が1点中層より出土した。東より）



(2) SB11貯蔵穴土層（一度に埋められた状況ではなかった。西より）



(1) SB12

(古墳時代後期の竪穴住居で、北半部は流失して分からないが、南半分を見る限り方形プランである。かまどの位置も流失してわからないが、貯蔵穴は検出できた。西より)

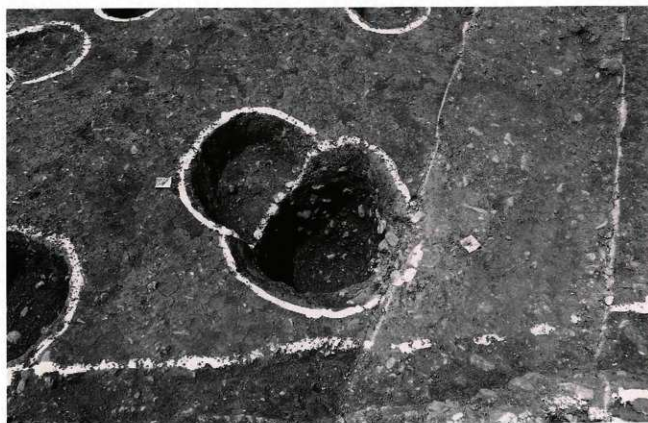


(2) SB12

(戦国時代の掘立柱建物と重複している。竪穴住居の南壁付近中央で、貯蔵穴が検出できた。南より)



(1) S B12土器出土状況
(1は須恵器の坏蓋、2は土師器の高坏で、南西付近より出土した。北より)



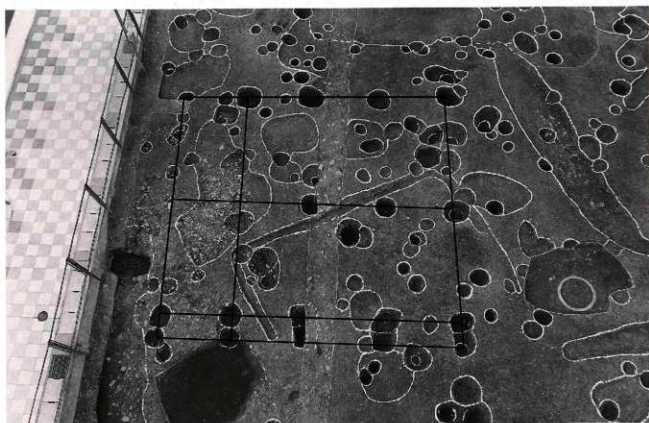
(2) S B12貯蔵穴（竪穴住居の南壁出入口付近に掘られた貯蔵穴と思われる。南より）



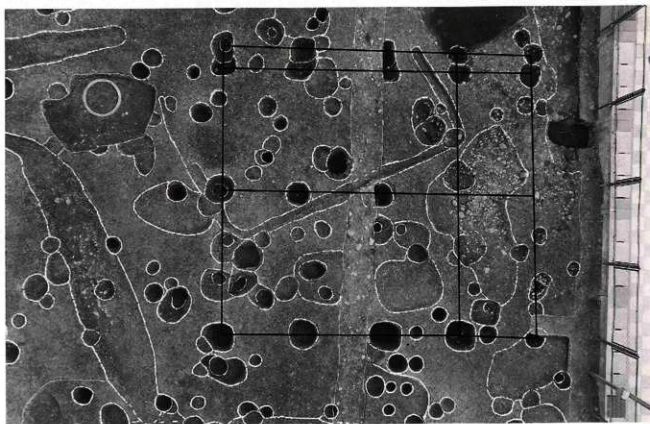
(1) SB12貯蔵穴土器出土状況
(須恵器の坏蓋、土師器の坏や高坏の破片が、礫と共に上層より出土した。北より)



(2) SB13
(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、残存状況は良くないため、
平面プランはわからないが、地床炉は検出できた。東より)

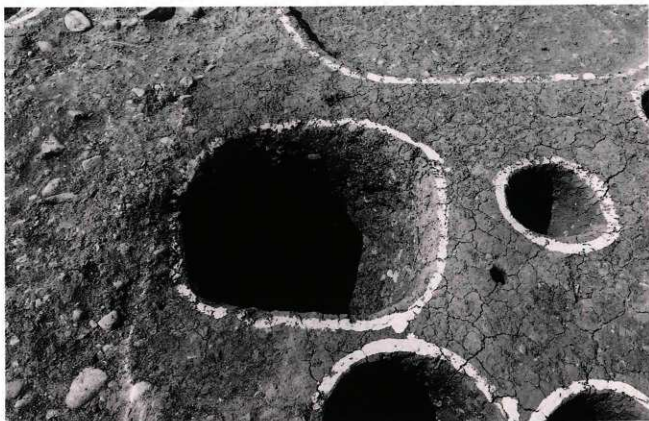


(1) SH12・13空中写真（戦国時代の大型の掘立柱建物2棟が重複して検出された。北より）



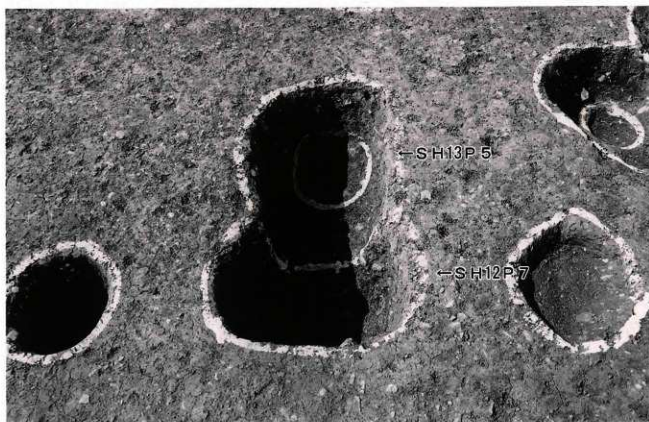
(2) SH12・13空中写真

（何れも東西方向4間となる大型の掘立柱建物である。南北方向の柱の並びはよくわからない建物である。主軸方向は東西方向になる。上が北で、真上より）



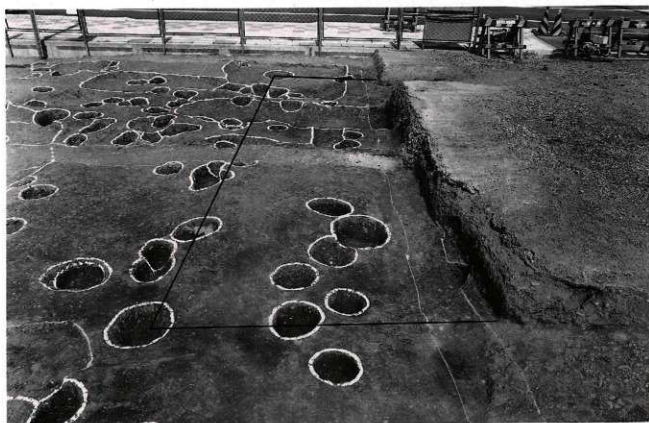
(1) SH12P 2

(戦国時代の掘立柱建物としては大きめの掘方をもち、隅丸方形の形となる。
内部に20cmほどの柱痕跡をもつものがある。南より)



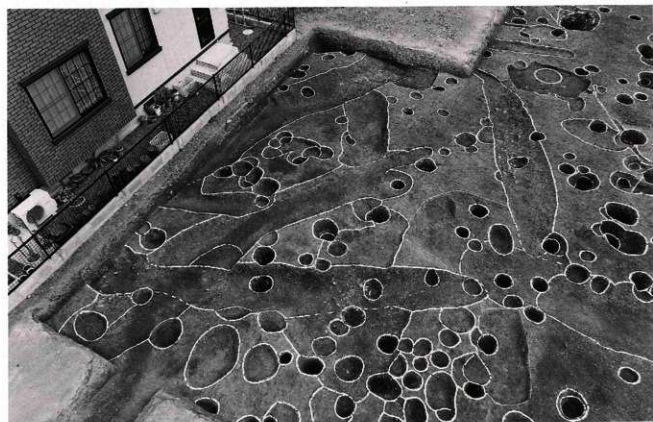
(2) SH12P 7・SH13P 5

(互いの柱穴は切り合うため時期差があることが分かる。南より)



(1) SH14

(東西方向5間となる掘立柱建物である。南北方向の柱も2間以上になりそうである。
主軸方向は検出した範囲では東西方向になる。西より)



(2) S Z10空中写真

(弥生時代中期後葉の方形周溝墓で、四隅に陸橋を設ける形態になると思われる。南より)



(1) S Z 10空中写真(弥生時代後期の土坑や、近世の溝と切り合う。上が北で、真上より)



(2) S Z 10東溝土層(盛土などの流入は認められず、自然堆積を示す。北より)



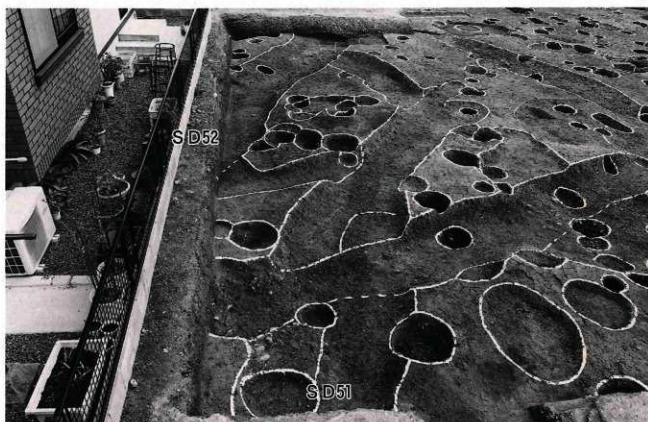
(1) S Z10南溝土層

(盛土などの流入は認められず、自然堆積を示す。方台部側の立ち上がりがやや急である。東より)



(2) S Z12

(弥生時代中期後葉の方形周溝墓で、四隅に障橋を設ける形態になると思われる。
北・東溝は検出できたが、西溝は検出できなかった。北より)



(1) S D51・52 (S Z10と切り合う、何れも近世の溝である。南より)



(2) S D52土層 (土層に流水した痕跡はないはないが、排水用の溝であろう。北より)



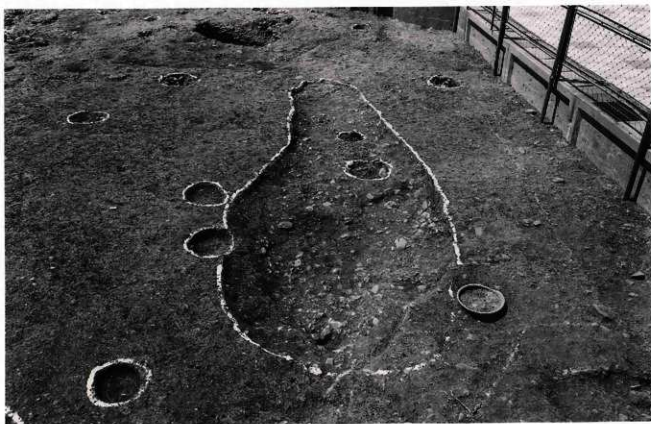
(1) SE1 (円形の素掘りの近世の井戸である。深かったため、完掘していない。南より)



(2) SE1土器出土状況
(上層で合口のかわけが出土した。井戸廃絶の際の祭祀用土器であろう。南より)



(1) SE1土層（細かな砂礫を多く含み、人為的に埋められたものと思われる。南より）



(2) SK75（弥生時代後期の溝状の浅い大型土坑である。土器の出土量は少ない。南より）



(1) SK75土層 (自然堆積を示している。北より)



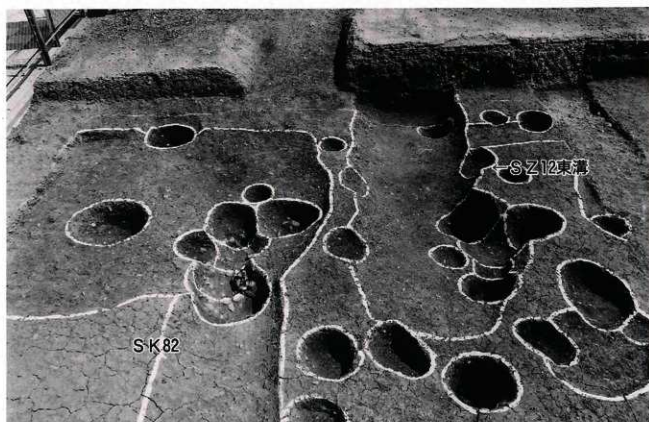
(2) SK77・83

(いずれも弥生時代後期の浅い楕円形の土坑である。土器の出土量は少ない。南より)



(1) SK78・79

(いずれも弥生時代後期の浅い楕円形の土坑である。土器の出土量は少ない。
SK77・82・83とも近接し、集中して分布する傾向が認められる。南より)



(2) SK82

(弥生時代後期の浅いやや大型の楕円形の土坑である。土器の出土量は少ない。北より)



(1) 西壁土層

(厚さ20cm程度の包含層(Ⅱ層)が調査区西端部分で見られたが、全域に及ぶものではなかった。東より)



(2) 重機による表土掘削作業

(調査区内では一部しか包含層は存在しなかったため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 人力による作業風景 (S B12付近での遺構の掘削作業を行っている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第93次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、戦国時代の掘立柱建物が検出された。南より)

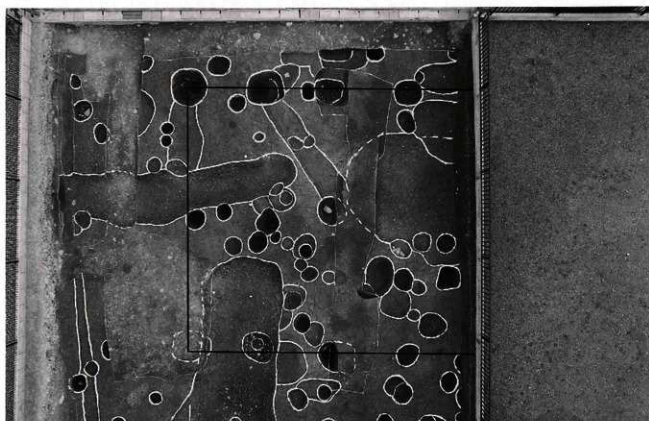


(2) 第93次発掘調査区空中写真全景
(遺構の数は多いため、弥生時代中～後期と戦国時代の集落域の中心地であることが判明した。東より)



(1) SH14~17空中写真

(戦国時代の大型掘立柱建物が検出された。第89次発掘調査区でも戦国時代の大型掘立柱建物が見つかったため、本調査地点周辺が戦国時代の武士の館の中心地であった可能性ができた。上が北で、真上より)



(2) SH15空中写真

(南北方向4間以上、東西方向ははっきりしないが2間以上になりそうな戦国時代の大型掘立柱建物である。主軸方向は検出した範囲では南北方向になるようである。上が東で、真上より)



(1) SH15 (北より)



(2) SH15P 3 (長方形の掘方をもつ柱穴で、底に直径20cmを測る柱が残存していた。南より)



(1) SH15P3土層
(底に直径20cmを測る柱を残すとともに、土層にも柱痕跡が認められた。東より)

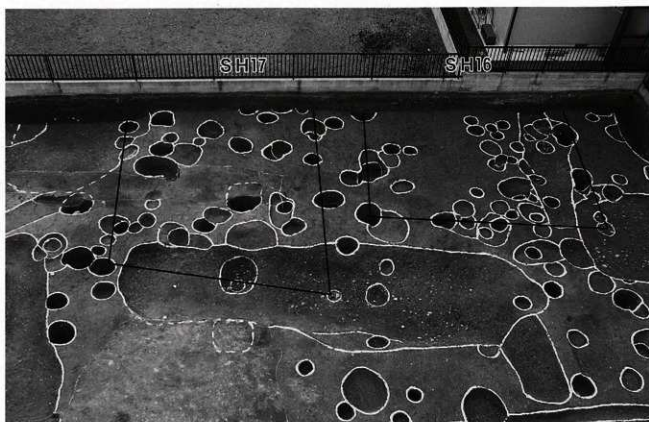


(2) SH15P4 (方形の掘方をもつ柱穴で、底に直径20cmを測る柱が残存していた。南より)



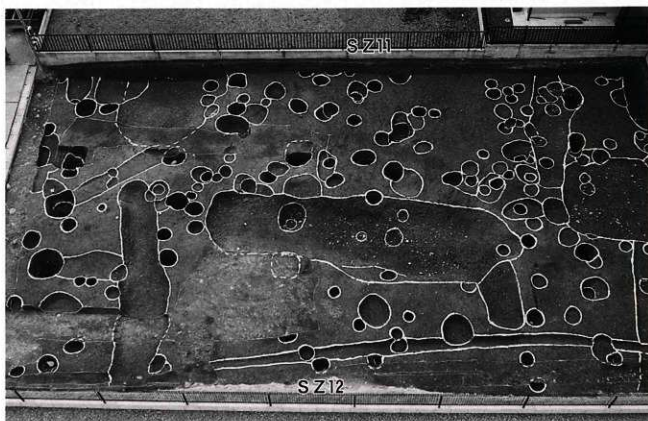
(1) SH16

(南北方向2間以上、東西方向3間になりそうな戦国時代の大型の掘立柱建物である。主軸方向は検出した範囲では東西方向になるようである。東より)

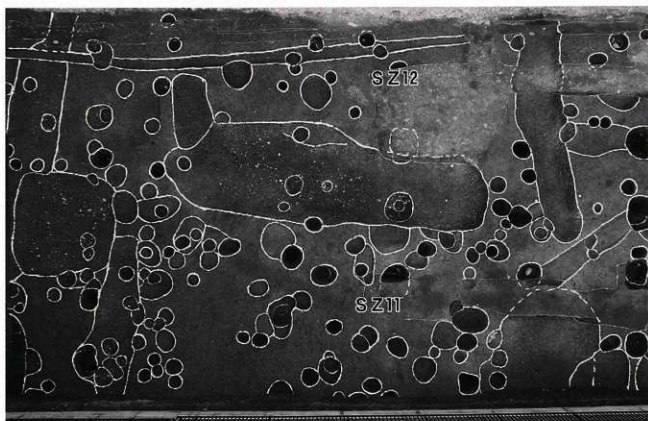


(2) SH16・17空中写真

(SH17はSH16と並列した建物で、南北方向3間以上、東西方向の柱間不明の戦国時代の大型掘立柱建物である。主軸方向は検出した範囲では、南北方向になりそうである。北より)



(1) SZ11・12空中写真
 (何れも四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。北より)



(2) SZ11・12空中写真 (SZ12の西溝は検出できなかった。上が北で、真上より)



(1) S Z11北溝土器出土状況
(何れも底より浮いた状態で出土した。1は小型の壺である。東より)



(2) S Z11北溝土器出土状況 (底より浮いた状態で出土した。中型の壺である。南西より)



(1) S Z11北溝土層
(盛土などの流入は認められず、自然堆積を示す。S Z12南溝と共有する溝であるが、土層からは切り合いを確認することはできなかった。東より)



(2) S Z12東溝土器出土状況
(何れも底より浮いた状態で出土した。2はかわらけの破片で方形周溝墓とは関係がない土器である。1は中型の甕で直立していたが、上半分は失われている。北より)

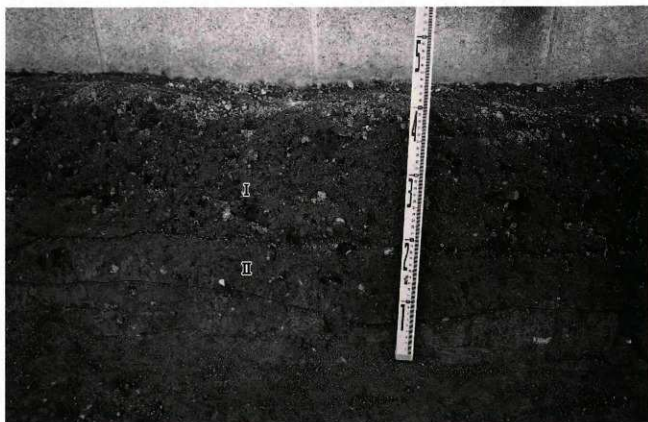


(1) S Z12東溝土層（盛土などの流入は認められず、自然堆積を示す。南より）



(2) SK84

（近世の方形の大型土坑である。検出面からは浅いが、水溜用と思われる。東より）



(1) 南壁上層（厚さ10cmの包含層（Ⅱ層）が調査区全体に認められた。北より）



(2) 重機による表土掘削作業（包含層面まで表土を除去した。）



(1) 人力による作業風景 (S Z11北溝付近での作業を行っている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ	カケノウエイセキ シヤシンズハンベン				
書名	掛之上遺跡87・89・91・93 写真図版編				
副書名	袋井市駅前第二地区土地画整理事業に伴う発掘調査報告書29				
編集著者名	松井一明				
編集機関名	袋井市教育委員会				
所在地	〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028 電話0538-23-9269				
発行年月日	2011年3月28日				
フリガナ 所収遺跡名	カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地	シズマカサツアライシタカモリノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20100702 ～ 20110327	849.2㎡	袋井市駅前第二地区土地画整理事業に伴う宅地造成
22216 151					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡	集落跡	弥生時代 中・後期	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 方形周溝墓	土器・石器	弥生時代 中～後期 有力集落
		古墳時代 後期	竪穴住居 掘立柱建物 土坑	須恵器・土師器	古墳時代 有力集落
		鎌倉～戦国	掘立柱建物	山茶碗・陶磁器	戦国時代 館跡
		近世	土坑 区画溝	陶磁器・かわらけ	

袋井市駅前第二地区土地画整理事業に伴う発掘調査報告書29

掛之上遺跡 87・89・91・93

— 写真図版編 —

発行年月日 2011年3月28日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部画整理事業課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2